

## (仮称)札幌市第2斎場の建設について

本市では、現在、里塚斎場(30基)と手稲火葬場(1基)の2カ所で市民の火葬需要にえています。

しかしながら、現有の火葬場では、今後想定される高齢化の急速な進行に伴う火葬需要の増加に対応できなくなるとともに、大規模災害時の火葬場被災に備えた施設の分散化や西部・北部方面の市民の利便性向上に配慮する必要があることから、平成18年度の供用開始を目途に新たに札幌市第2斎場(火葬場)を建設するものです。

なお、この建設事業は、本市第1号のPFI事業として計画を進めておりますが、いよいよ4月中旬に建設工事に着手することとなりました。

### 1 事業経過

- ・平成11年度：第1次5年計画において、PFI推進モデル事業に位置付けられる。
- ・平成12年度：PFI導入の可否に係る検討(事業方式、リスク分担、コスト算定等)
- ・平成13年度：PFI事業化に係る検討(費用対効果の分析、実施方針、要求水準等)
- ・平成14年度：PFI事業契約に係る事務(事業者公募(総合評価一般競争入札)、事業契約の締結)
- ・平成15年度：事業者及び関係機関との協議(設計協議、融資銀行団との協議等)

### 2 第2斎場の計画概要

？ 施設の名称	(仮称)札幌市第2斎場
？ 位置	札幌市手稲区手稲山口313番ほか
？ 区域区分	市街化調整区域
？ 構造・規模	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 地上2階
？ 敷地面積	約40,000㎡
？ 延床面積	約12,800㎡
？ 施設概要	・火葬炉数 29基 ・焼却炉 1基(胞衣(出産の時に出る胎児を包んだ膜や胎盤などをいう。)等の焼却用) ・告別室 2室 ・拾骨室 14室 ・特別控室 31室 ・駐車場 大型バス50台程度、乗用車120台程度
？ 供用開始	平成18年4月1日を予定

### 3 施設の特徴

- ？ 最新の技術を取り入れた火葬炉や集じん機を導入して適切な管理を行い、ダイオキシン類の排出を抑制します。
- ？ 高齢の方や障がいのある方などに配慮したバリアフリー化とユニバーサルデザインを積極的に採用しています。
- ？ 雪冷房システムの採用や光ダクトによる自然採光の活用など、自然エネルギーの有効利用に積極的に取り組んでいるほか、省エネルギー対策として有効な外断熱工法も取り入れています。

? 敷地周辺の緑化に努め、周辺環境に配慮しています。

#### 4 整備手法等

? P F I (Private Finance Initiative) 手法の導入

民間の資金、経営能力及び技術能力を活用して公共施設等の建設、維持管理、運営等を行う手法のことです。

第2斎場整備運営事業の場合、長期にわたり火葬需要が見込まれること、公共サービスの水準等を設定しやすい定型的業務が主であること、規模が大きく、コスト削減効果又は財政支出の平準化効果が期待できること等の理由から、本市のP F Iモデル事業として位置付けられました。

予定価格約234億円に対して約185億円で落札され、50億円ほどの経費の縮減が図られました。

? 事業方式《B O T (Build Operate Transfer) 方式》

民間事業者が自ら資金調達を行い、施設を建設(Build)し、契約期間にわたり管理、運営(Operate)を行って、資金回収した後、施設の所有権を市に譲渡移管(Transfer)します。

? 事業契約等

平成14年度にP F I法に基づく実施方針を公表し、総合評価一般競争入札による事業者の選定を行い、「東亜建設工業(株)グループ」を落札者に決定しました。

その後、平成15年2月21日に、落札者が設立した特別目的会社の「P F I 斎場運営株式会社」と第2斎場の設計・建設・管理・運営に係る約23年間にわたる事業契約を締結しております。

平成15年度は、事業者と基本設計・実施設計に関する協議を行っており、4月中旬に建設工事に着手します。

#### 5 今後の事業スケジュール

区分	施設関係	進入路関係
16年度	建築工事、造成工事(16年4月~) 火葬炉工事、設備工事(17年1月~)	15年度に路盤工事を終え、工事用通路として使用
17年度	同上	舗装工事(土木部委託) 植栽工事(緑化推進部委託) 交差点工事(土木部委託)
18年度 、 37年度	P F I事業者による第2斎場の管理・運営 (平成18年4月1日予定)	
事業終了	施設、備品の所有権移転 (平成38年3月31日契約終了)	

#### 【問い合わせ先】

保健福祉局健康衛生部生活環境課 電話 211-2862